



NIA SQUARE スクウェア

第43号

1998年9月1日発行
＜編集＞
習志野市国際交流協会

特集 日本語を教えて国際交流
What's News タスカルーサ通信
N.I.A. Youth 留学生のおはなし・他
World Watcting フランス・W杯観戦記

Air Mail定期便 101個のカップ
N.I.A. Events 浴衣着付教室・お茶会
会員紹介 こんにちは・コ・ン・ニ・チ・ハ
Let's チャレンジ 英語クロスワード 他

＜特集＞日本語を教えて国際交流 ボランティア日本語教育

N.I.A.では、定評ある「外国人のための日本語講座クラス」に加え、個人のレベルにあわせ、ボランティア講師による「マンツーマン授業」を開設しています。講師のほとんどは、N.I.A.が隔年で実施している、「日本語講師ボランティア養成講座」の修了者。「養成コース・実践コース」によって、それぞれ日本語の教え方を学んできた皆

さんが中心ですが、他にも同等以上の講習を受けた方が講師をしています。

現在50人ほどのボランティア登録があり、そうした皆さんがN.I.A.の日本語教育を担っています。クラスには様々な国の顔、考え方があふれています。マンツーマンで教えることによって、世界がより深く見えてくるようです…。



○1997年度に養成講座を受講されたみなさん

うと、自分自身母国である日本という国、人、言葉を意識的に捕らえられることができるようになったのも恥ずかしながらこの本との出会いからのような気がします。

いつしか日本語教育の勉強をしてみたいという思いを抱くようになってから数年が経過し、昨秋、ついにN.I.A.の養成講座を受講する機会を得ることができました。

講師の岡本和子先生は、私と日本語教育との出会いであるあの本を推薦図書としてご紹介なさっていました。受講する前は、日本人だから日本語の学習は、さほど苦しまずにできると信じていました

■養成講座・宮崎洋見さん

私が日本語講師という職業を意識するようになったのは、たまたま借りた「日本語教育の教室から-外国人から見た日本事情-」という本からだったのですが、当時高校の教師をしていた私は、そこに描かれていた教師と学生との子気味よい授業風景や、教師と留学生との心の交流に新鮮な驚きと大いなる憧憬を抱いたものでした。また、今思

し、自分の国語的な知識の総復習というような気持ちから講義に望んだのですが、講義が進むにつれて、そのような甘い気持ちはどこかへ吹っ飛び、正直な話、「日本語ってこんなに難解なものだったの!」と絶句してしまったのです。自分が、いかに曖昧な知識の下で日本語を理解していたということを自覚せざるを得なかったからです。

このことから日本人だからといって日本語を教えること

ができるわけではないということを現実に受容し、その上で、やはり語学としての日本語学習は必須であるということに認識するようになりました。全く「無知の知」とはよくいったものです。しかしこの経験こそが、私にとってはかけがえのないものとなったのはいうまでもありません。

受講前に一冊の本との出会いから未知なる世界をかき見、この講座を受講してからは、以前にも増して日本語を学習する視点がより客観的になって日本語と向き合っていると確信しています。

また、講義内容はかなり難解なものでしたが、先生の明るく気さくな人柄のおかげで、授業も質問や意見が飛び交う活気あるものとなり、毎回日本語再発見といったおもしろい授業になりました。授業後も先生が私たちの質問に一つ一つ答えて下さり、本当に感謝の気持ちで一杯です。

学習面のみならず、人間関係においても、クラスの方たちとの暖かい交流が生まれ、お互いに普段着の親交ができたことが何よりも嬉しいことです。

現在は、実践コースも修了し、ペルーの方に教えています。これからは、今後の授業内容を充実させるためにも、この講座で学習したことを基盤として、さらに好奇心をもって、楽しく学んでいきたいと思っています。

■自分も学べる・前田紀子さん

養成・実践コースと続けて受講しました。素晴らしい先生と、年齢の違うすてきな級友に恵まれ、豊かな時間を与えられました。日本語を国語としてではなく、別の視点から(外国人から見た日本語)として見ることができたり、グループで模擬授業をするため話し合ったり…と、本当に視野が広がった感じです。引き続き勉強会を続けていくことになり、これからの発展が楽しみです。

また、すぐに中国の女性の方に教えることになり、うれしいやら不安やらで複雑な気持ちですが、頑張ってみたいと思います。

■日々成長・大久保道子さん

案内を目にした時、違う言語で気持ちが通じたときの安

堵、感動を思い出し、少し話せる英語が初めて役に立つかもしれない、と思いました。(これは活動してすぐ心から消えましたが。)「喜びを共有したい」という気持ちもありました。

岡本和子先生の授業は、日本語の特徴、文法、授業法など、やはり大変難しいものでしたが、楽しく「どんなときでも人を信じよう」という言葉が胸に残っています。



○養成講座で外国人に教えるための日本語を学びました。

昨年六月から、出産を控えた韓国の方と勉強しました。先生に教えていただいた、教科書、小道具、新聞ちらし等を準備し、説明方法を考えながら活動日をむかえていました。

生徒の一生懸命な様子に心を打たれ、また韓国語と日本語があまりに似ているので驚きもありました。

一年が過ぎたころ、アンケートで、「マンツーマンはよい」「一人で病院へ行けるようになった」等の感想が、励みになっています。更に一年が過ぎようとしている今、少し余裕ができました。相互理解を深めるために信頼関係を築いていこうと思っています。

このボランティアによって友達ができたことは、大きな喜びです。岡本先生の率直な指導をいただきながら、真剣に課題に取り組んだみんなと、しっかり心がつながっていると思います。少しでも多くの人の助けになれる力強いボランティアグループになりたいです。

■二人三脚で・北澤紀子さん

留学生の日本での母親をした事がきっかけで、この講座を受講することにしました。

コースが進むにつれて、日本語に対する認識の甘さを痛感。マンツーマンで教えるなど、自信がないままのスタートでしたが、あれから約二年。この間四人の生徒の授業を受け持ちました。

熱心に来てくれると張り合いもあり、力も入ります。が、休みがちになると自分の非を探し、悩んだりもします。同国人と張り合って、テキストの進み具合を気にする人、こちらの言うことを一言一句聞きもらすまいとして一時間半を目いっぱい吸収しようとする人、言語学習より日本文化に



○皆さん熱心に養成講座を受講されていました。

強い興味を持つ人・・・いろいろです。

授業前にまず前回までの質疑応答。疑問点をクリアしてから次の新しい課に進みます。

特別本人の希望がなければ、テキストの中の文を変化させて、会話に重点を置くようにしています。また授業の合間には、生活上困った事等何でも話してもらい？（身振り手振り、筆談を交えて）相談にのったりもします。日記を書いてもらったこともありましたが、大人なのでテレくさいのか立ち消えになってしまいました。私のモットーは、「楽しみながら日本語を上手になってもらおう」「日本を知って、『日本』という国と人々を好きになってもらおう」です。

教室に来る外国の人々と知り合い、その人達の母国に興味を持ち、私の世界は広がった気がします。と、同時に同じ志を持った友人達にも恵まれ、まさしくボランティアの醍醐味を味わっているところです。「与えている」つもりが、いつの間にか沢山の無形のプレゼントを戴いている幸せ。大いに感謝しながら、ライフワークの一つにと願っている現在です。

一挙掲載！生徒の声・・・

1. 日本語を勉強してみてどうですか。

※楽しいです。

※生徒一人一人の聞きたい問題が違うので、マンツーマンの勉強で良かった。

※テキストの内容だけでなく、会社での疑問点を聞くことができるし、質問もしやすい。

※生活する上で必要な言葉も教えてもらうことができ良かった。

※先生の勉強の進め方は、ちょうど良く、先生がプリントを作ってくれてくれたり、一生懸命やってくれて、とても嬉しい。

※家でも勉強するようになった。事前に自分でテープを聞いたり、テキストを読んだり、文法の勉強をしたりと、予習をするようになった。

※保育の方が来てくれて良かった。これからも引き続き、来てもらいたい。

（以前、保育のボランティアさんに、生徒さんの小さなお子さんを見ていただいたことがありました。）

2. 具体的にどんなところで役立ちましたか。

※発音が良くなりました。

※大学で日本人の友達や教

授と日本語で話せるようになりました。

※手紙が読めるようになりました。

※勉強する前は、まったくわからなかった職場での会話がわかるようになった。

※電車に乗る際、駅名が読めるようになって、人に聞かなくても安心して乗れるようになった。

※テレビで言っていることが、少しわかるようになった。

※日本語で話すのは難しいですが、日本語を勉強している外国人同士で話すときは、大丈夫。（でも日本人との会話は難しいです。）

※挨拶だけしかできなかったのが、会話もできるようになった。

※日本語を勉強する前は、病院へは、ご主人と一緒にないと行けなかったのが、今では、一人で行けるようになりました。

※電話が取れるようになりました。

※日本人の気持ちがわかるようになりました。

■編集部から

今号はいろいろなお話を聞きました。講師の方々も生徒さんも、一生懸命取り組んでいます。日本語ができない外国人の方は、あまり外に出なくなりがちですが、この日本語クラスやマンツーマンレッスンをきっかけに多くの友達をつくり、日本での生活が楽しいものになると、私たちもうれしいですね。今は、授業中小さいお子さんを見てくれる保育ボランティアの方がいません。毎週でなくても、来ていただけるとお母さんが勉強に集中できて助かります。また、日本語講師ボランティアに興味のある方や、皆さんの周りで、日本語を勉強したい外国人の方がいらっしゃいましたら、N.I.A事務局にご連絡ください。



●マンツーマンで生徒にあわせた日本語教授

What's New Tuscaloosa通信

tifって、知ってますか？何、trfなら知ってるって。違う違う…tifというのは、Tuscaloosa's International Friendsのこと。習志野市の姉妹都市、アメリカのタスカルーサ市で活動している非営利団体の略称です。（翻訳協力：山崎美智代、明石盟子）

WHO

tifは、会員制の団体です。会員には、外国から訪れるビジターと交流のきっかけができるようお手伝いしています。例えば…旅行者に周辺を案内する、自宅でのおもてなし、一緒に地域・文化活動を演出する…等々の中から自分の興味があること、したいこと、できることを選んで、出合いを楽しむことができます。異なる国の人々に触れ、理解しあうことが会員の視野を広げ、ひいてはコミュニティーとより深い関わりを持つことにつながるのです。

WHEN

tifのポリシーは、柔軟性が第一。いつでも、どこでも、だれでも交流の機会が与えられています。つまり、参加者には常にオープンということです。

WHY

tifの活動目的は、タスカルーサに住む人々が地域の国際化を通じて「世界への窓」を持つことにあります。その理由は、①異文化を知り、新たな友達をつくること、②国際的な話題を持つこと、③思いやりの心を育てること、④地域のイメージを高めること、が挙げられます。一方、訪問者にとっても、①自分の興

味のある分野にたずさわる人物に会える、②アメリカの生活、文化、習慣を知ることができる、③タスカルーサの思い出が残る、ようになります。その結果として芽生える友情は代え難いものとなって、双方に文化を超えた長期にわたる喜びをもたらしてくれるにちがいありません。

HOW

tifは、会員が納める15ドルの年会費で支えられています。会費は、活動費・広報費・通信費などの諸事業に充てられます。

WHERE

tifは、アラバマ大学と密接な関係を保ちながら活動しています。事務局は大学キャンパス内にあり、そこを基盤として地域のさまざまな団体や住民の皆さんと連携していく努力を続けています。



ルーシー・ジョーダン tif会長からの ご挨拶

今年、1997年は地道に積み上げてきたtifの事業が軌道に乗り、私たちにとってすばらしい年になりました。当地で学ぶ留学生の皆さんが、地域に溶け込み気持ちよく暮らしていけるよう、tifを通じてご協力いただいた多くの皆さまに感謝の言葉を申し上げます。この一年で留学生数が倍増している事実もtifによる活動成果の現れであり、喜ばしい限りです。個人の貴重な時間と関心をtifのために捧げてくださった皆さま、本当にありがとうございます。この欄をお借りして、事務局のマリー・ルー・ラスコ氏にも深甚なる謝意を申し上げます。

すいかパーティー 25周年！

アリス・マクレーン・シュワートさんが自宅を開放して「すいかパーティー」(Watermelon Cutting Party)を開くようになって、25年が経ちます。タスカルーサで学ぶ留学生たちにとって、このパーティーは地域の人々と触れ合う絶好の機会となる大きな役割を果たしてきました。「最初はクリスマス・パーティーだったんです。そう、60年代の終わり、確か1968年のことでした。当時、留学生は少なかったですよ」、とシュワートさん。彼女が国際交流活動に関心を持ったきっかけ

は、世界中を旅行した経験から。「戦争のない世界を夢見て、自分にできることをやってきたんです。個々の人間がお互いにもっともっと知りあえたら、夢はより現実に近づくのではないかと・・・」。個人的に開いてきたパーティーですが、今ではtifの理念を実現する事業の一部となっています。スチュワートさんの長年の貢献に対して、この度tif会長から本人に感謝状が贈られました。

最近のtif事業報告から

1997年8月14日「tifすいかパーティー」

アリス・マクレ
ーン・スチュワ
ートさん宅
6:00pm～

9月14日「会員オリエンテーション」

ロータリー・イ
ンターナシヨナ
ルハウス
3:30pm～

10月7日「アラバマ大学学
長主催パーティー」学長官邸

6:00pm～

12月1日「tif委員会」

12月7日「クリスマスの集
い・ツリー飾り
を楽しむ」
ルイーズ・トー
マス博士宅
3:00pm～

1998年1月20日「新入学留学生歓
迎会」

アラバマ大学学
館 5:30pm～

3月2日「tif委員会」

4月19日「tif定例総会」

スタン & スタ
ー・ブルームさ
ん宅
3:00pm～

tif奨学金について

tifは、アラバマ大学で学ぶ優秀な留学生に対して奨学金の支給制度を1995年に創設しました。この奨学金の名称は、tif評議員として地域の国際化に多大な貢献をし、翌96年に亡くなったポール・ガーナー名誉博士とミニー・マイルス博士の功績と名誉を称えるため両博士の名を冠することがtif会長によって発表されました。

1997年「ポール・ガーナー奨学金」の受給者ミッシェル・アイジ君は、オランダ出身の留学生。95年から英語学科の助手を務め、98年春学期からは博士課程へ進学予定です。奨学金500ドルの用途は、「論文作成のためのプリンター」を購入したそうです。アイジ君の母国オランダは、リサイクル運動の先進国。タスカルーサ市では、現在アルミ缶だけがリサイクルの対象となっていますが、アイジ君はゴミの分別収集を実施するよう市議会へ請願を提出するなど、地域への貢献も認められました。

一方、1997年「ミニー・マイルス奨学金」は、香港出身のメイジー・チェンさんへ贈られました。チェンさんは、96年に社会福祉学科の修士課程を終え、現在再び教育心理学科の修士課程で学んでいます。チェンさんの地域貢献は、精神障害児福祉センターでインターンとしての

協力を続けていることが評価されました。

二人の他にも、次の学生が各分野でその顕著な活動を認められ、昨年10月7日に行われた「アラバマ大学学長主催パーティー」において表彰されました。＜敬称略・（ ）内は、出身国または表彰対象活動＞

マーギ・ビスマン
(ドイツ・学生団体の副会長)
ミハエル・ドゥリコヴァ
(ELI英語指導助手)
マニュエル・マヨーガ
(スペイン・国際ロータリークラブ)
アッシス・ルチオ・サントス
(ブラジル・自国文化の紹介)
メアリー・アンジェラ・ウィリス
(アラブ首長国連邦・学生団体の秘書)
サンドラ・ウィリス
(アラブ首長国連邦・各種委員会)
イー・ジャー
(中国・市民まつり)
エドアルド・ヴァルカス
(ボリビア・チェロ演奏)

tifは、一口15ドルで会員になることができます。趣旨に賛同される方、または、tif奨学金の原資となる寄付金にご協力いただける方は、次の一文を書き添えて下記まで郵送して下さい。

I have enclosed a check payable to TIF for \$ _____ to pay my contribution for the current year.

MAIL TO:
TUSCALOOSA'S INTERNATIONAL FRIENDS(TIF)
BOX 870254, 135 B.B. COMER HALLL
TUSCALOOSA, AL 35487-0254
U.S.A.

このページは「習志野市国際交流協会N.I.A. 青少年部会」がつくるページです。



〈寄稿〉…留学生のおはなし…

オレンジ色の明かり

李 海燕 (千葉工業大学)

色にはたくさんの意味がある。赤い色は情熱の意味を持つ。白い色は純潔の代表。黒い色は神秘の象徴。緑は生命を育む意味…。オレンジ色は？…暖かい感じ。けれど、私の心中はそれだけでなく、オレンジの明かりには人間の心情もあると思っている。

去年、来日して間もない頃、自分が大人になるために、そして「人生を体験する」ためにアルバイトを始めたが、家に帰る途中で道に迷ってしまった。「エッ？ちょっと違うな。でも大丈夫、もし間違っても、途中で出会う日本人に聞いたらわかるでしょう」と思って、歩き続けた。時間はだんだん過ぎていった。暗くなってしまう、歩いている人は一人もいなくなった。お腹もすいたし、服のすき間に風も入ってきた。「日本の冬は随分寒いな」と思った。家は一軒も見えず、車中の人も早く帰りたい様子だった。体のそばを冷たく車が通り過ぎるだけ。冷たい人間、冷たい日本、冷たい人々…と思って歩いていた。

遠くに蛍のようなオレンジ色の明かりが見えた。私は救星を発見したような感覚になり、歩く速度が速くなった。そこは果物屋さん、店主は70歳くらいの老夫婦だった。私はおばあちゃんに自分の住所を説明して、今いる所がわからないので家に電話をかけてもらった。家ではおばさんが待っていて、おじさんは私を探しに出かけていた。迎えに来てくれるまで、ずっと老夫婦と話していた。老夫婦は昔、中国に行ったことがあり、中国がすごく好きだと言った。自分の子供達はみんな結婚していて、別々に、遠い所に住んでいるという。毎年一回、子供達は老夫婦の家に集まってくるが、この時以外はめったに会わないそうだ。私が「日本ではそういう家族が多いのですか」と聞いた時、おばあちゃんの目に悲しみと寂しさが潜んでいるように見えた。ため息をついて「ええ、多いですね。でもしょうがないね」と言っていた。この時、私は何か言った方がいいのかなと思ったが、何もしゃべれなくて、かばんの中に中国の蚕豆という食べ物があったことを思い出して、差し出した。私は本当にこの2人に何かお礼をしたいと思った。おばあちゃんが入れてくれたお茶を飲んでいる時、「何をしたらいいかな」と頭の中でずっと考えていた。30分ぐらい過ぎて、おじさんとおばさんが迎えに来た。何度も感謝して、店の果物をいっぱい買って帰った。そして、自分は2時間半も歩いていたことが分かった。

その時から、その老夫婦の店へよく相談をしに行くようになった。しかし、去年の6月、そのおじいちゃんが病院で亡くなった。短い時間に、自分から何かが失われたようで、心が暗くなった。日本に来て、中国にいるおばあちゃんを思い出した。老人達は時として寂しい生活を過ごしている。彼らも周囲の関心が欲しい、自分の子供の関心が欲しい、と思っている。そうでしょう？

あのオレンジ色の明かりが、忘れられなくなってしまった。

「中国的茶話会」を裏から見れば…

去る6月27日、青少年部会では「中国的茶話会」と銘打ってパーティーを開いた。今、我々のもとに中国の著しい経済成長のニュースが毎日のように入ってくる。また、最近では街中でも中国語を交わす人々の姿が見られることもあって、中国に関心を持つ日本人も増えてきたように思える。だが、いくら中国に興味があっても、直接中国人と話す機会は、なかなかないのではないかな。そこで青少年部会では、気軽に中国人と話せるきっかけを作れたら楽しいだろうと考えて、今回のパーティーを主催したのだった。



結果は、大盛況だった。当日は日本人30人、中国人10人程が集まり、パーティー会場はみんなの熱気で蒸し返ってクーラーが役に立たないぐらいだった。参加者が会話を楽しむ声や笑い声で会場がいっぱいになった。これほど盛り上がるとは嬉しい驚きだった。

何人もの参加者から、ぜひまたこういったパーティーを開いてほしいという声が聞かれた。スタッフにとってこれほど嬉しい要望はない。小さなパーティーだが、準備は何かと手間がかかるものだ。それらの苦勞が一気に報われたような気がした。

これからもこうしたパーティーを定期的に開いていくつもりだ。そのためにも多くの人にパーティーに参加してもらいたい。また、こんな楽しいパーティーの企画を、一緒に作り上げていける仲間を募ってきたい。

(K.ITABASHI)

Snap Shot!



●青少年部会も活躍…
タスカルーサ市からの高校生と交流の一場面

N.I.A.事業の企画・運営スタッフに興味のある方は、国際交流協会事務局までお問い合わせください。お待ちしております。

〒275-8601 習志野市鷺沼1-1-1

習志野市役所内

「国際交流協会事務局」まで

TEL53-9300

ヒッチハイクの旅 ～オランダのチューリップが見たい！～

しばやま ひろみ
柴山 廣美さん（大学4年）

（私は、いろんな国をいろいろなかたちで旅することが好きです。そのきっかけとなったのは、フランスのカンという街に住んでその日暮らしをしていた時、オランダのチューリップを見たいためにヒッチハイクの旅をしたことでした。）

それは、日本人の友人と2人で、カンを発つことから始めました。カンからパリを経て、リュクセンプルクを目指したのです。親指を立て、行きたい方向を書いた紙を持って大きな道に立つと、30分もすれば車が停まってくれました。5台くらい乗り換えるとリュクセンプルクまでたどり着き、そこからドイツのトリアまで行きました。しかし、トリアでは東洋人が珍しく、顔をのぞきこまれるだけで思ったようにヒッチハイクできなくて、6時間も同じ場所に立つ羽目になってしまいました。そして、ようやくケルンまで乗せてくれる人に拾ってもらうことができました。

私達はたいてい、街に着くとまず水や食料を買うためにスーパーを探します。夜はほとんど野宿で、シャワーを浴びたくなることもありました。肉を焼くためにまきを集めたこともありました。疲れてきたら、ユースホステルに泊まりました。一つの街に一泊すると、二日目はまる一日観光し、もう一泊してから次の日の朝早くヒッチハイクを始める、といった生活をしていました。ヒッチハイクでは、言葉が全然通じず会話が成り立たなかった人もいましたが、暑い日には、車を停めてジュースを買ってくれた人もいました。警察の車にも乗せてもらいました。大学生のカップルは、「自分達もよくヒッチハイクで旅行して、いろんな人に世話になった」と言って夕食をごちそうしてくれ、一晩泊めてくれました。工場の裏で野宿した日の朝、早くに出勤してきた人に見つかって叱られるかと思ったら、何も言わず温かいコーヒーを入れてくれたことには、とても感激したものでした。

オランダに入り、いよいよチューリップを見に行こうということで、コーケンホフを目指しました。コーケンホフ

の隣街でヒッチハイクに成功した時、チューリップを見たくてわざわざフランスから来たことを片言の英語で話すと、その人は「そんなに素晴らしいものなら、自分も一緒に見に行こう」と、会社の昼休みにもかかわらず連れていてくれたのです。コーケンホフのチューリップ畑は本当に素晴らしいものでした。乗せてくれたその人は、私達以上にチューリップ畑に興奮して「ありがとう。君たちのおかげで素晴らしいものを見られた」と言ってくれました。チューリップの花が大地を覆いつくし、赤や黄色の原色が鮮やかな世界がそこにはありました。

このヒッチハイクの旅では、様々な人に出会い、嬉しい思いをたくさんしました。それからというもの、世界中のいろんな人に出会うのが楽しみで、暇とお金があれば即外国に出かけるくらいの旅行好きになりました。もちろん嫌な思いをすることもたくさんあるけど、何かいいことがあるとそんなことはすぐに忘れてしまい、次の旅に出かけるためのパワーに変えてしまいます。今でも旅先で会った人とは手紙を交換したり、再度訪ねてみたり、自分なりにグローバルな友達の輪を広げています。みんなの優しさに、本当に感激です。…



旅行記募集

皆さんの旅行記を募集します！
場所はどこでもかまいません。世界一周から一泊二日の小旅行まで、あなたが体験した感動、戸惑い、失敗談、お得情報などをお聞かせください。字数は500字以上で、写真やイラストも載せられます。なお、編集部で一部改変をさせて頂くことがあります。匿名を希望の方は、お申し出ください。名前（ふりがな）、住所、電話番号（あればFAX）を明記の上、

〒275-8601 習志野市鷺沼1-1-1

習志野市役所内

「国際交流協会事務局」

E-mail: niaofyou@ask.or.jp まで



○オランダでヒッチハイク中の筆者

「フランス・ワールドカップ観戦記」

たかはし じょういちろう
高橋 丈一郎さん (佐倉市在住)

ワールドカップ・フランス大会開幕を目前にして、日本はテレビや新聞紙面を騒がせたチケット問題で大きな影響を受けた。フランス入りを予定していた自分もチケットがないのでは、と心配になって何度も旅行会社に電話をした。いざ、成田空港でチケットを受け取ったときには、さすがに鳥肌が立ったし、この時ばかりはワールドカップ観戦チケットがパスポートよりも大切に思えた。

自分は、出身地の大分県が次回ワールドカップの開催都市に立候補し、選出されて以来、地元の一員として何らかの形でワールドカップの企画・運営に携わりたいと思いつけている。また、大会後は、大分のような地方都市に4万人以上収容できるスタジアムが残るわけで、その後の施設管理・運営にも興味を持っており、将来はこの分野で仕事に就きたいと考えている。だから、ワールドカップを目の前で観戦したいと常々思っていたところ、幸運にも観戦ツアーに参加する機会を得て、チケットを手にすることができた。

やはり、スタジアムの雰囲気、プレイの迫力を肌で感じ取るということは、テレビで観戦するのとはスケールが違うものである。試合開始と同時に紙吹雪が舞う光景は、これぞワールドカップと思わせるすばらしい演出だった。日本代表チームは、三連敗という残念な結果に終わって、悔しくて悔しくてしかたがなかったけれど世界のレベルを体験して次への課題もはっきりしたように思う。4年後の舞



○日本VSクロアチア戦が行なわれたナントの競技場で

台では、きっと最高の活躍を見せてくれるに違いないと信じている。そして、今大会ではフリーガンやチケットの問題があったし、2002年は韓日共催という初めての形で行われる大会なので他にもまた新たな問題が生じてくるとは思うが、今大会で自分が遠い外国にいることを忘れさせるほどの日本人サポーターがフランスまで応援に駆けつけたこと、日本戦には韓国人サポーターが、韓国戦には日本人サポーターが応援する姿が多々見られたことなどは、2002年の次回ワールドカップをより良い方向に導いてくれるものと信じている。

帰国後は時差ボケで一週間、身体がだるかった。そのさるさは、もしかしたらフランスでの楽しい日々から普段の学生生活に戻ったギャップもあったかもしれない。大学生でワールドカップ海外観戦だなんて贅沢なことだと自分は

思うが、このような体験はなかなか社会に出てからはできないことでもあり、この旅は一生の思い出に残る宝物となった。4年後に、あの感動が再び日本に居ながら体験できると思うと、将来への夢がより強固なものとなった。

●多くの人々を熱狂させたW杯フランス大会「チケット」

自転車熱

イタリアで盛んなスポーツはサッカー、次に自転車（ロードレースなどの競技）の順ですが、本人が楽しむとなると、自転車乗りが圧倒的です。サッカー選手も30代後半になると自転車の選手に転向する例が多く、サッカーは若い時だけとか……。

ツール・ド・フランスは有名ですが、歴史あるGIRO・DE・ITALIA【ジロ・デ・イタリア】（イタリア1周ロードレース）は100年以上前から今日まで続いているイタリア人が最も熱狂する健康的なレースです。毎年、5月上

の人々が自転車を楽しんでいる、とのこと。週末になると朝7時頃から次々と色鮮やかなユニフォーム姿で身を固めた自転車のグループが発進します。昼や午後になると、夫婦や恋人同士の二人乗り、あるいは家族が揃ってゆっくりとサイクリングを楽しんでいる姿を見かけます。シルバー組は、もちろん平日です。若者以上に派手なコスチュームを身につけてネ！

自慢の優勝カップ

カルドーニョ市の名物選手は、記録の保持と優勝カップの多さで突出しているFIORINDO

BAGGIO（フィオリンド・バジジョ）さん。サッカーで有名なロベルト選手の父親です。40歳の時に競技を始め、60歳頃までに獲得した優勝カップの数は100個以上、部屋には数えきれないほど



○バジジョさんが自慢にするカップの数々

旬から6月上旬の日程で行われ、今年はフランスのニースが発源地です。私の師カプロ先生も1ヶ月間仕事を休んで“追っかけ”をする熱狂的なファンです。今年は私たちも一緒にニースヘレースの出発を見に行きました。昨年、ヴィチエンツァ市ヘゴールを見に行った時は、人が多すぎて皆の脚の間に自転車の車輪だけが見えるという状況でしたが、駅前の公園のカーブはフルスピードでラストスパートを駆け抜けるのが見えて感動しました。日本人の私を見つけたイタリア人達から「ナカノ・コウイチは偉大な選手だね」とか「シマノの自転車はスバラシイ」などと声をかけられました。最近では日本の若い自転車ファンも増えたとみえ、20歳位の女性が栃木県からたった1人で応援に来ていてビックリしました。

私の住むカルドーニョ市の半数近く

有りました。（写真）歴史に残るレースは58歳の時、ジロ・デ・イタリアでヴェローナヘゴールした時の区間優勝記録。この時は、ゴールと同時に自転車のタイヤが燃えてしまったそうです！？…最近の大きなレースはチームを組んで戦わないと、一匹狼で優勝を狙うことは難しくなってきたとのこと。

現在66歳のフィオリンドさんは、今でも鉄工所で100Kg以上の重さの機械（私たちが使う銅版画用の印刷機を作ってもらいました）をヒョイと持ち上げてしまう怪力の持ち主です。が、これからはシルバーの部で頑張るそうです。（※この時初めて、私はサッカーのロベルト・バジジョ選手がどのように鍛えられたのかを知りました。1年前の取材の時、「歩かないうちからボ

ール遊びをしていた……」と言っていたのは、実はロベルトの祖父が丸太からくり抜いた木のボールや鉄の塊をオモチャ代わりに与えていたということ……ヴィチエンツァのサッカー場は、父のフィオリンドさんが数年かけて造成したもので、幼いロベルト選手の遊び場だったことなど、自慢話になるのを心配して話さなかったことを知らされたのでした。）



ヒーローを夢みて

私の住む家の2階に住むジャンカルロ・ナルディさんはカルドーニョの若手自転車チームのリーダー。将来のホープとして期待されています。（結婚した時、妻が優勝カップやトロフィーを全部捨ててしまった、と笑ってましたが……）練習は毎週日曜日、15名程のグループが集まって、細い車輪の競技用自転車で100キロ前後を半日かけて走行します。たまたま取材の日は近くのアジアゴ（2006年冬季オリンピックの開催候補地）へ登山訓練をするため、全員がマウンテンバイクでした。病院の技師、銀行員、八百屋の兄ちゃん、肉屋の主人、ケーキ屋のおじさん、etc……スゴイ派手なんですよ。カルドーニョには自転車屋や修理店は1軒も無く、多くの自転車狂の人たちは自宅のガレージに部品をたくさん詰め込んでいます。そこであつという間に自転車が組立てられ、近所の子供たちのものまで修理を引き受けています。夏から秋にかけて地中海カラーのユニフォーム姿でさっそうと走る彼らは、見違えるほど若々しく、生き生きとしています。アレー（それゆけ）！

日本には四季があって、それぞれに季節を代表する風景があり、その時々風景に触れる度に「ああ、日本でいいなあ」と感じ取ることができます。春といえば桜、秋なら紅葉、冬ならこたつとみかん、などがすぐ頭に思い浮かびます。そして、夏といえばやはり浴衣。夏の夜に浴衣を着て、うちわを片手に花火を見て…これぞ日本の夏のイメージですね。しかし、そうは言っても実際に自分が着るとなると話は別。毎年、夏が来る度に「今年こそ浴衣を着て夏を満喫して…」などと思うのだけれど、そのうちに「でも浴衣を出すのは面倒だし…」、となつて「どうせ自分では着られないし…」などと考え始めるといつい消極的になり、気がつくと夏が終わっていて「ああ、今年の夏も浴衣を着ないで終わったなあ」などと思うことを繰り返していました。

今年も夏が近づき、例年のごとく「今年こそは…」と思っていた矢先、N.I.A.から「浴衣着付教室・お茶会」の案内が届き、一念発起とばかり、友達と一緒に参加しました。会場は津田沼サンロードの和室で、まず浴衣の着付け方から始まりました。参加者は13人。ほとんどが女性で、年齢は20歳代から70歳まで幅広く、外国人男性も1人参加されていました。先生を囲んで、各自持参した浴衣を手に、持ち方、はおり方から丁寧に教えていただきました。皆さんがそれぞれ思い思いに持参した浴衣はとても華やかで、部屋一杯に懐かしい夏の雰囲気広がりました。木綿の素材感や色、柄が、見ている私たちにも涼しさを感じさせてくれ、「日本の文化っていいものだなあ」と、しみじみ感じました。また、「エアコンのない時代にこのように涼しさを演出して楽しんでいた昔の人々は、素晴らしい感覚を持っていたんだなあ」と、素直に感心したりもしました。

そんな優雅な気分も束の間、実際に着付を始めてみると思ったより大変でした。先生の手つきを見ていると、とて



も自然で簡単に着ているように見えるのに、コツがつかめずなかなかきれいにできないのです。時間をかけると、どんどんくずれていくようで、上手な人ほど手



●着付は日本の文化 (左端が筆者)

早く、かつ、きれいに着られるようです。帯もいろいろな結び方があり、一枚の布でこんなに様々な形ができるのかと驚きました。今回は一番簡単な結び方を教えていただき、それでも四苦八苦しながらようやく完了しました。慣れないため時間もかかり大変でしたが、着付けていく過程そのものが楽しく、夏ならではの味わいを堪能することができました。浴衣を着ると、気分までもが何となくおしとやかになり、自然と背筋が伸び、本当に気持ちのよい一日でした。

着付けを終えると、場所を隣の茶室に移してお茶会が開かれました。先生とそのお弟子さんに迎えられ、お作法を一つ一つ丁寧に教えていただきました。部屋の造り、掛け軸、生けられた花、出されるお菓子などすべてのものに招く側の細かい配慮が隠されていることを知り、茶道の深さに感心させられました。季節を味わう、もてなす心を学ぶ、招かれる側のマナーを身につける、そんなことが自然にできるように努めるのが茶道の精神だということを実感しました。普段私たちはほとんど意識しませんが、日本人は本当に身近なものから季節を感じ取り、それを楽しむ心を大切にしてきたように思います。外国の方々と接する時に、日本人としてこのような心も伝えていけたら素晴らしいと思います。そのためにまずは自分自身がそれを理解し、身につけていることが大切です。今後も機会あるごとにいろいろな伝統文化の修得に励み、このような日本人の心を大切に、誇りに思い、伝えていけるよう努力したいと思っています。



株式会社 雄企画

クレスト ウェディング プラン

適用期間=平成11年3月31日まで

クローバー40名様660,000円より
(サービス料込・税金別)

(上記のくわしい内容については下記にお問い合わせ下さい。)
ご予約・お問い合わせは
TEL (0474) 53-1201 <直通>



ザ・クレストホテル

津田沼

(帝国ホテルグループ)

〒275-0016 習志野市津田沼5-12-4
TEL (0474) 53-1111 <代表>
京成・新津田沼駅前

物語が集う<コミュニティホテル>です。

ザ・クレストホテル津田沼では、この習志野の街で育まれるさまざまな物語を、豊かにふくらませる<コミュニティホテル>をめざしています。

- 85の客室
- 2つのレストランラウンジ
- 10の大小宴会場

会員紹介/こんにちは、コ・ソ・ニ・チ・ハ/みなさん、どうぞよろしく！

頼りにしてます

まさおか じゅんこ
正岡 淳子さん（佐倉市在住）

正岡さんは、千葉大学教育学部中学校教員養成課程で音楽を専攻している4年生です。今、興味を持っていることは美術館やお芝居通い、料理、旅行、民族音楽、語学の勉強などいろいろあって、好奇心は人一倍旺盛、とのこと。実際、正岡さんの毎日は、やはり、いろいろなことをしていて、とても忙しいそうです。大学の授業に出ている他は、サークルで美術館や、博物館をまわり、また勉学の延長として、歌やピアノ、ヴァイオリン、三味線などにもふれます。アルバイトも、音楽教室、博物館の標本整理、そして最近では出版社と、正岡さんらしく、やはりいろいろやっているそうです。そんな好奇心旺盛な正岡さんが、N.I.A.会員になったのは、大学1年生の夏に参加した英語交流キャンプがきっかけ。N.I.A.に入会したことで、参加したイベントを通して、国際的なことに目を向けられるようになり、また青少年部会のミーティングや編集の仕事を経験して、みんなで何かを作り上げる楽しさや、難しさを学んだそうです。大変責任感があり、N.I.A.Youth編集長という今の立場も際立つ、すばらしい仕事ぶりだと思います。これからも、本当にみんなが楽しんでくれるような企画を考えたり、良い記事をたくさん載せたいとのこと。残り少ない学生生活、多彩にがんばってほしいです。（Yukiko.H）



○安曇野にて

中国と日本のかけ橋に

り そうきょう
李 錚強さん（藤崎在住）

李錚強さんは、昨年八月に奥さんの張恕茗（チョウジョメイ）さんと長男の李晰（セキ）君の三人で習志野市に転入して来られました。出身地は中国東北部吉林省の首府、長春。東北師範大学と北京語言学院で学んだ日本語はほとんど違和感なく流暢な話しぶりです。今は共立女子大学総合文化研究所の専任講師として、中国語の教育に当たっておられます。奥さんは今、N.I.A.の日本語教室で勉強中とのことでしたが、すでにかなりお上手でした。中国では吉林農業大学で生物学を教えておられたそうで、おしどり学者といったところでしょうか。息子さんの李晰君は小学校6年生、市内の小学校へ元気に通っているそうです。

李さんの中国での仕事は吉林省政府の外事弁公室の副処長。何度も来日経験があり、その後、仙台市の国際交流員も務めた経歴をお持ちです。故に日本の事情にはよく通じておられますが、ゆくゆくは中国に帰って仕事をしたい、とおっしゃっていました。お互いの国をよく知った李さんのような人こそ、中国と日本のかけ橋にふさわしいのではないのでしょうか。

（Hiroshi.M）



○奥様と自宅で

美しい日本語を伝えたい

あきやま なおこ
秋山 奈穂子さん（東習志野在住）

地元で生まれ育った秋山さんは、現在学習院大学大学院で日本語教育を専攻する学生です。もともと得意だった英語を究めるため海外渡航したことが逆に日本語を勉強し直すきっかけになったというのですから、人生とは分からないものです。高校時代、秋山さんは英語に磨きをかけるためアメリカ北東部ニューハンプシャー州の高校へ留学しました。そこは、小さな町でのんびりとした雰囲気がとても気に入りました。反面、車を持たない身には交通の便が悪く、あまり出歩いた記憶は残っていません。町に自分以外の日本人はおらず、初めの頃は生活習慣や文化の違いが理解出来ずに苦勞もしました。そんな時、少しでも日本語が話せる人が身近にいたらどんなに心強く思うか、と考えたことが外国人に日本語を教える道を選んだきっかけだったのです。昨年の夏休み、自分の街の日本語教育がどのように行われているのかを調査、研究していた折りに、N.I.A.の活動を知って入会。早速、ボランティア登録をしてくださり、日本語教室で3カ月程ベビーシッター役も勤めていただきました。これからも、得意な分野でN.I.A.に力を貸してください。

（Minoru.K）



○友人との旅行（中央が秋山さん）

IEC 国際交流センター

英会話スクール

当スクールでは、英語教師を米国、カナダから招聘しています。
先生方を貴方のご家庭や友人に紹介し、日常生活からの国際化にお役立て下さい。

京成津田沼駅クレストホテル前
☎51-0104

あらゆる旅を
トータルにプロデュース

For Your Travelife

JTB

JTB船橋支社

個人・グループ国内旅行 個人・グループ海外旅行 国内・海外団体旅行

0474-23-3011 0474-23-6655 0474-23-3171

JTB津田沼支店

個人・グループ国内旅行 個人・グループ海外旅行（午前10時から午後6時まで営業いたします。）

0474-76-9264 0474-79-5685

船橋支店 日曜・祝日休業

船橋市本町3-1-1

津田沼支店 火曜休業

習志野市津田沼1-2-1

日本交通公社

Let'sチャレンジ/ ザ・英文クロスワードパズルNo.43/プレゼント付!

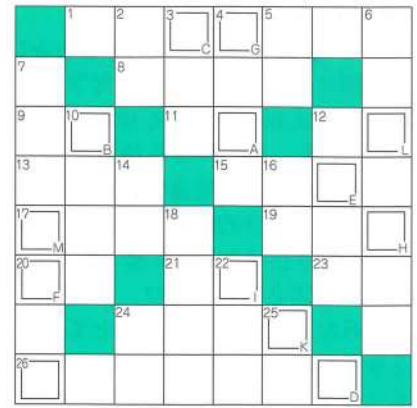
〈DOWN〉

2. Bachelor of Arts. (Abbrev.)
3. The colour of fresh blood
4. Part of the body that connects the shoulders and the head
5. Chemical symbol for Erbium
6. Person who has charge of property
7. Weather conditions (of a place)
10. Bag-like covering for the head and neck
12. Capital city of Norway
14. Company
16. Iowa (Abbrev.)
18. Plural of datum
22. Female of the domestic fowl
25. Master of Ceremonies (Abbrev.)

〈出題者〉 御園生 馨 (N.I.A. 会員)

〈ACROSS〉

1. Part payment made as a pledge that full payment will follow
8. Bitter drink made from malted barley and hops
9. Left hand (Init.)
11. District of Columbia (Init.)
12. Oxford University (Init.)
13. International Olympic Committee (Init.)
15. Touch with the lips to show affection or as a greeting
17. State of mind or spirits
19. Alternate (Abbrev.)
20. Advertisement (Abbrev.)
21. Expression of surprise, regret, hesitation
23. Old English (Init.)
24. Single article or unit in a list, etc.
26. Mistake



〈応募事項〉

クロスを解いたあと、A～Mの文字をつなげてできたことばが正解です。

ハガキに解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。10月末日必着。

正解者の中から抽選で3名の方に、写真のオーストラリア・グッズのうちいずれか1点を差し上げます。当選者は、12月上旬発行予定の本誌第44号で発表。

宛先: 〒275-8601 市内鷺沼1-1-1 習志野市役所総務課内「N.I.A. スクウェア」編集部。たくさんのご応募をお待ちしています。



編集アラカルト

- 橋本総理から小淵総理へバトンタッチ。長引く不況の中、早期景気回復を願う。(M・小林)
- クロスワードパズルを解くには、AcrossとDownの合致性がポイント。ビックバン時代を乗り切るには、高齢化の対応策も一つのポイント。どちらも努力と忍耐が肝要かも。(K・御園生)
- この夏、姉妹都市タスカルーサから青少年を迎えて、惜しみなき協力をいただいた皆さま、どうもありがとうございました。これで両市から5回づつ、のべ10回の派遣になります。十年一日の如しとは正しくこのことです。(A・東)
- 一週間で21人のタスカルーサ市訪問団の受付は、やっと顔と名前が一致したところにお別れでした。(K・鈴木)

N.I.A.スクウェア・第43号

発行1998年9月1日/発行責任者・林 安次
編集責任者・小林 実/企画構成・小森 雅夫
編集・習志野市国際交流協会
〒275-8601 千葉県習志野市鷺沼1-1-1
習志野市役所総務課内
電話 (0474) 53-9300 FAX 53-1547

前回の解答と当選者の発表

おめでとうございます!

〈解答〉 WORLD CUP

T	E	L	E	T	Y	P	E
E		U	S	E	D		N
C	R		P	A		A	T
H	O	W		M	A	M	A
N	O	O	K		P	E	N
I	M		A	A		N	G
C		I	N	T	O		L
S	E	N	T	E	N	C	E

〈当選者〉

アラバマ大学オリジナル・キャップ

日高 久萬男さん (自衛官)

アラバマ大学オリジナル・ネクタイ

多田 朋美さん (主婦)

応募総数は13通でした。

Information

■N.I.A.会員親睦バスツアー参加者募集

「ソムリエのワイン教室とフランス料理」
河口湖・ホテルハイランドリゾートにて
●日時 11月28日(土) 午前8時出発
●参加費 9,000円

(子供料金の設定はありません)

●お申込 ハガキに、住所・氏名・年齢
電話番号及び「バスツアー希望」と
書き、右記「習志野市国際交流協会
事務局」へ (11月4日まで)

■日系人職場適応日本語講習会及び合同研修会

日時 11月8日(日) 午後1時～

会場 千葉県労働者福祉センター
(千葉市役所前/千葉市中央区千葉港44)

主催 (財)産業雇用安定センター・千葉県・労働省

後援 ブラジル大使館・ペルー大使館・パ

ラグアイ大使館・ボリビア大使館・
コロンビア大使館・アルゼンチン総
領事館・千葉市・千葉市国際交流協会

参加資格

千葉県内に居住し、また勤務するポ
ルトガル語圏及びスペイン語圏出身
の日系人

内容

日本語講習会①「職場で役立つ日本
語会話」②「職種編」(無料テキスト付)
合同研修会「労働者のための労働関
係法令等」
(当日は、ポルトガル語及びスペイン語
の2言語2会場に別れて開催します。)

参加無料

問い合わせ先

(財)産業雇用安定センター千葉事務所
(tel. 043-225-6072)
<http://www.sangyokoyo.or.jp/>